

令和7年度事業報告

ロシアによるウクライナ侵攻やアメリカとイスラエルによるイランへの攻撃等、国際情勢が不安定化しており、エネルギー価格の高騰やインフレによる物価上昇が国民生活に大きな負担となっています。

このような状況のもと、本会では、令和2年度に策定した「第3期新庄市地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画」に基づき、地域福祉の中心的な役割と使命を担う団体として各事業を推進してまいりました。

物価高騰等により生活していくことが困難な世帯や18歳未満の子どもが3人以上の母子世帯にフードバンクによる食料提供を行いました。

生活福祉資金貸付業務として、コロナ時期に生活を維持することが困難になった世帯に対し、貸付後の生活状況の把握や償還指導等のフォローアップ支援を行いました。

ボランティアセンターでは、最上地区社協合同で災害ボランティアセンター運営研修会を実施し、市町村職員及び市町村社協職員の連携強化を図りました。また、今季の豪雪では、学生や企業より協力いただき、除雪ボランティアとして延べ100名の方が活躍されました。

高齢者の健康対策事業では、高齢者が地域で孤立しないようサロン活動の拠点を増やし、地域交流を図りました。また、高齢者の健康増進のため、予防体操やワナゲ大会を実施しました。

放課後児童クラブでは、常勤職員の処遇を改善し、離職防止に努めました。また、外部団体やボランティアの受入を強化し、利用児童との交流を深めることができました。

もみの木介護支援事業所では、介護を必要とする方が住み慣れた自宅でできるだけ心身ともに健康で過ごせるように、専門的な見地から本人の心身の状況や生活環境を見極め、本人や家族の意向を丁寧に聞き取り、医療機関やサービス提供事業所とも連携を図りながらケアマネジメント業務を実施しました。

もみの木訪問介護事業所では、訪問介護員が高齢者や障がい者の自宅に訪問し、食事、排せつ、入浴、家事などの介助や自立支援、通院時の外出移動サポート等を行いました。

地域包括支援センターでは、高齢者の総合的な相談機関として、課題解決に向けた助言や適切なサービスに繋げる支援を行いました。様々な課題を抱えた支援困難事例に対しては、行政や関係機関等と随時協議しながら専門的な支援を実施しました。また、オレンジ市場（障がい者施設の物品販売等）や小中学校での福祉教育（昔遊びやスポーツ交流）を開催し地域へ出向く機会を積極的に持ち、高齢・障がい・児童など分野を超えた地域共生社会に向けたネットワークづくりを図りました。

各事業にご支援ご協力をいただいた関係各位に感謝申し上げ、令和7年度主要事業につきましてご報告いたします。

【法人・地域福祉事業】

1. 役員会等運営事業

(1) 理事会の開催

◇第1回理事会	令和7年 6月 4日 (水)	出席理事 12名 出席監事 2名
◇第2回理事会	令和7年 6月27日 (金)	出席理事 14名 出席監事 2名
◇第3回理事会	令和7年 9月 1日 (月)	書面による決議
◇第4回理事会	令和7年11月21日 (金)	出席理事 11名 出席監事 1名
◇第5回理事会	令和8年 3月17日 (火)	出席理事 12名 出席監事 2名

(2) 評議員会の開催

◇第1回評議員会	令和7年 6月27日 (金)	出席評議員 12名 出席監事 2名
◇第2回評議員会	令和7年 9月17日 (水)	書面による決議
◇第3回評議員会	令和7年12月 4日 (木)	出席評議員 18名
◇第4回評議員会	令和8年 3月27日 (金)	出席評議員 15名

(3) 監査の開催

◇第1回監査	令和7年 5月19日 (月)	出席監事 2名(令和6年度分)
◇第2回監査	令和7年11月26日 (水)	出席監事 2名

(4) 委員会の開催

◇評議員選任・解任委員会	令和7年 6月 6日 (金)	出席委員 4名
	令和8年 3月18日 (水)	書面による決議
◇歳末たすけあい配分委員会	令和7年12月10日 (水)	出席委員 6名
◇新庄市善意銀行運営委員会	令和7年12月10日 (水)	出席委員 6名
◇会長表彰選考委員会	令和8年 3月 4日 (水)	出席委員 5名

(5) その他

◇正副会長会議	令和7年10月 8日 (水)	会長、副会長、常務理事外
◇会計訪問指導	令和7年 5月12日 (月)	天口税理士
	令和7年 9月19日 (金)	天口税理士
	令和8年 1月26日 (月)	天口税理士
◇社会福祉法人監査	令和7年11月14日 (金)	成人福祉課
◇福祉サービス利用援助事業運営適正化委員会訪問調査	令和7年10月22日 (水)	山形県福祉サービス運営 適正化委員会

◇地域福祉関連事業ヒアリング

令和7年11月27日（木） 県社協

◇新庄市介護保険施設等に

係る集団指導 令和8年 3月11日（水） 新庄市成人福祉課

2. 事務局運営事業

【関係機関及び団体との連携】

①行政(新庄市)との連携

- ・事業運営に関し、所轄庁としての助言・指導をいただいた。
- ・社会福祉協議会事業の情報の共有に努め、市の広報紙等に掲載協力をいただいた。
- ・社会福祉協議会運営費の補助をいただいた。
- ・地域包括支援センター運営事業、要介護認定調査、放課後児童健全育成事業(日新・萩野・明倫・新庄)、地域活動組織育成支援事業、敬老会支援事業を委託事業として実施した。
- ・福祉サービス利用援助事業、貸付事業等の制度・サービスの運営における要援護者の支援を連携して行った。

②区長協議会との連携

- ・社会福祉協議会の協力員として、常に市民の先頭に立ち地域福祉・高齢福祉事業及び共同募金事業などの普及活動や啓蒙、広報紙の配布、会費・募金の徴収等幅広くご協力をいただいた。

③民生委員児童委員協議会との連携

- ・社協の各種事業を進めるうえで、ニーズの把握や情報提供にご協力いただいた。
- ・生活福祉資金貸付事務事業では、低所得者世帯の更生を図るため、指導や意見、対象世帯の見守りにご協力いただいた。
- ・歳末たすけあい募金の配分実施では、対象世帯の調査及び配付のご協力をいただいた。

④県社会福祉協議会との連携

- ・生活福祉資金貸付事業・福祉サービス利用援助事業を委託事業として実施した。
- ・社会福祉関連事業を進める上で指導、意見をいただいた。

⑤関係諸団体との連携

- ・老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会、更生保護女性会、交通安全母の会やその他の関係諸団体と、共同募金活動等、各事業において連携とご協力をいただいた。

(事業効果等)

各機関、団体のご指導・ご協力により、円滑な社協事業の運営が図られた。

⑥地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に向けた取り組み

- ・次期計画となる第4期地域福祉計画・第5期地域福祉活動計画策定に向けて、市民アンケ

ートを実施すると共に、計画の理念・基本方針等について意見集約するため、検討会と推進委員会を開催した。

○検討会の開催

- ・日時：令和8年2月 4日（水）10：00～11：30
- ・場所：新庄市役所

○推進委員会の開催

- ・日時：令和8年2月16日（火）10：00～11：40
- ・場所：新庄市役所

⑦最上地域社会福祉協議会情報交換会の実施

- ・日時：令和7年10月27日（金）13：30～15：15
- ・場所：社協3階会議室

（事業効果等）

各社協で実施している除雪支援事業や除雪ボランティア等の情報共有や意見交換を行った。次年度は、災害ボランティアセンター運営研修として、キントーンを使用した実践的な研修を行う予定。

【備品等の借用】

市内の団体及び個人に対し、下記の備品の貸し出しを行った。

備 品 等	件 数
車椅子	15件
高齢者疑似体験スーツ	5件
ワナゲ用具	4件
ボッチャ	2件
モルック	3件
テント（共同募金配分で購入）	1件
その他	2件

3. 会 費

会費の納入に理解を求めるとともに、納入の便宜を図るため金融機関（新庄信用金庫・新庄市農協・もがみ中央農協）での振込を促進した。

また、6月下旬の5日間の期間、市役所内で行う各種会費等の集中受付に同席し、社協窓口を設け、納入の簡便化に努めた。

令和7年度実績額	前年度実績額	前年度比較	対前年比	振込利用件数
7,472,400円	7,593,200円	△120,800円	98.4%	11件

集中受付期間 6月16日～23日

期間中社協会費納付地区数 171町内

賛助会員

令和7年度実績額	件数
34,000円	10件

(課題等)

令和7年度より、賛助会員を新たに設け、個人・団体等より10件の協力をいただいた。

社協事業への理解や協力を求めるため、ホームページや会議の場での情報提供、広報紙やSNSによる広報活動を今後も継続する。

4. 実習生の受入れ

専門的な知識や実践力の高い人材の育成のため、将来の福祉を担う資格取得を目指す実習生の受入れを行った。

(もみの木介護支援事業所)

【介護支援専門員実務研修】

実習生 1名

受入れ期間 令和8年1月19日(月)、23日(金)
2月2日(月)

(もみの木訪問介護事業所)

【介護実習Ⅲ(訪問介護実習)】

東北文教大学短期大学部 学生1名

受入れ期間 令和7年8月7日(木)～8日(金)

(地域包括支援センター)

【地域包括支援実習】

山形県立保健医療大学 学生 1名

受入れ期間 令和7年9月16日(火)～19日(金)

(事業効果等)

実習生を受け入れることで、将来の福祉を担う専門的な人材が育成されると共に、指導する担当者が専門職としての知識や技術の再確認を行うことができた。

5. 職員研修

各事業所が個々の専門職としての知識・技術を高めるための継続的な研修の他に、職員育成のための研修を行った。

○感染症の予防及びまん延防止のための研修(法定研修)

日時: 令和7年6月17日(火) 13時30分～14時20分

場所: 社協3階会議室

対象: 訪問介護事業所、介護支援事業所、地域包括支援センター職員

参加人数: 24名

○虐待防止・身体拘束適正化研修(法定研修)

福祉に携わる職員は、虐待を発見しやすい立場であることを改めて自覚するとともに、虐待発生の背景や課題、虐待を発見した場合の対応等を確認した。

日時: 令和7年7月15日(火) 9時30分～10時30分

場所: 社協3階会議室

対象: 訪問介護事業所、介護支援事業所、地域包括支援センター職員

参加人数: 24名

○感染症の予防及びまん延防止のための訓練（法定訓練）

日時：令和7年10月14日（火）13時30分～14時15分

場所：社協3階会議室

対象：訪問介護事業所、介護支援事業所、地域包括支援センター職員

参加人数：31名

○交通安全講習会

日時：令和7年12月9日（火）14時00分～15時30分

場所：社協3階会議室

内容：山形県内の事故状況について、事例紹介、グループディスカッションなど

講師：山形県火災共済協同組合 菅野祥生 氏、松田信人 氏

参加人数：20名

○健康づくりセミナー

日時：令和7年6月10日（火）

場所：社協2階会議室

内容：ストレス解消プログラム

講師：株式会社モーシェ 代表取締役 山口広樹 氏

参加人数：24名

日時：令和7年10月7日（火）

場所：社協2階会議室

内容：肩こり腰痛予防改善体操

講師：株式会社ドリームゲート ウェルベース村山店マネージャー 今野陽介 氏

参加人数：21名

6. 各種表彰該当者の推薦

第75回山形県民福祉大会

開催日：令和7年11月28日（金）

場 所：酒田市民会館「希望ホール」

社会福祉の分野で顕著な功績があった方に対し、その功を称え表彰状が贈られた。

◇ 県知事表彰

民生委員・児童委員功労者 阿部たきの

共同募金運動奉仕者 団体 新庄市農業協同組合 新庄信用金庫 もがみ中央農業協同組合

◇ 大会会長表彰

民生委員・児童委員功労者 藤澤 正義 矢口 栄子 佐藤由美子

社会福祉事業協助・奉仕者（個人） 伊藤 富子

社会福祉事業協助・奉仕者（団体） 新庄べにばな歌謡サークル

社会福祉協議会優良活動 新庄市社会福祉協議会

（敬称略・順不同）

7. 福祉教育の推進

福祉教育の推進を図ると共に、小学校、中学校、義務教育学校の総合的な学習の時間において、認知症キッズサポーター養成講座を開催した。

また、「スポーツ交流会」「昔あそび」を行う福祉教育を、学校と地域の高齢者ボランティアに協力いただきながら開催した。

日 付	開催学校	人 数	内 容
令和7年5月23日(金)	神室産業高校 1年生	110名	スポーツ交流会
令和7年5月30日(金)	八向中学校 全学年	26名	昔あそび
令和7年8月29日(金)	八向中学校 全学年	26名	認知症キッズサポーター養成講座
令和7年9月25日(木)	新庄北高校 1年生	74名	スポーツ交流会
令和7年10月10日(金)	新庄小学校 4年生	39名	認知症キッズサポーター養成講座
令和7年10月10日(金)	新庄小学校 4年生	39名	スポーツ交流会
令和7年10月29日(水)	八向中学校 全学年	27名	スポーツ交流会
令和7年11月5日(水)	萩野学園 6年生	33名	認知症キッズサポーター養成講座
令和7年11月6日(木)	萩野学園 5年生	32名	スポーツ交流会
令和8年1月15日(木)	本合海小学校5～6年生	7名	認知症キッズサポーター養成講座
令和8年2月26日(木)	新庄南高校 2年生	43名	認知症サポーター養成講座
令和8年2月27日(金)	日新小学校 6年生	91名	スポーツ交流会

(事業効果等)

認知症を知り、地域を支える取組みについて理解を深める機会を設け、地域共生社会の推進を図れた。また、地域や学校と連携を図りながら、世代間交流を実施することができた。

8. 福祉サービス利用援助事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

認知症の症状や知的障がい、精神障がい等によって必要な福祉サービスを自身の判断で適切に選択・利用することが難しい方を対象に、福祉サービスの利用手続きの援助を基本サービスとして、必要に応じて日常的な金銭管理の支援を行った。

基幹的社協分利用件数 23件（前年度23件）

内、新規契約締結件数 2件、解約件数 2件

令和7年度相談件数 281件（前年度286件）

(事業効果等)

利用者の生活状況や心身の状態の変化に柔軟に対応し、福祉サービス等の利用援助や日常的な金銭管理を実施することができた。

9. 生活福祉資金貸付事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

低所得者世帯等の経済的自立と教育支援を図るため、貸付を実施した。滞納者に対しては、償還指導、相談援助を行った。

〈令和 7 年度貸付内訳〉

資金種類	件 数	貸付金額
福祉資金（転居・葬儀）	3 件	8 7 5, 0 0 0 円
教育支援資金（就学支度費・教育支援費）	2 件	1, 5 7 5, 0 0 0 円
合 計	5 件	2, 4 5 0, 0 0 0 円

（事業効果等）

低所得世帯に対し、資金の貸付や相談支援等を行うことにより、自活できると認められる世帯で、必要な資金を銀行等から借り受けることが困難な世帯に対し、担当民生委員と連携を図り、貸付や償還指導を行った。

特例貸付の借受世帯に関しては、長期的に滞納が続いている世帯に対し、訪問による調査を実施し、償還金減額等の相談支援につながった。

10. 地域活動組織育成支援事業（地域ふれあいサロン事業 市委託事業）

高齢者が住み慣れた地域で生き生きと過ごすことができるよう、閉じこもり予防や介護予防を目的とした「地域ふれあいサロン」の活動や運営を支援した。

◇サロン活動の実施状況

	サロン名	実施回数（回）	参加人数（名）
1	泉田ふれあいサロン	9	5 9
2	かぼちゃの会	3 6	1 8 4
3	金沢新町ふれあいサロン	4 6	3 6 7
4	あたごサロン	7	6 5
5	サロンなごみ	2 3	1 7 1
6	サロンのぎわ	6	4 3
7	サロン桜	1 3	1 1 0
8	千門町いこいの会	2 9	2 1 6
9	下仲町かたらいサロン	9	7 7
10	吉袋サロン	1 2	1 5 9
11	鳥越なかよしサロン（廃止）	2 6	1 8 0
12	梨の木ふれ合いサロン	1 2	6 8
13	小泉サロン	4 9	4 0 5
14	つどい	2 4	1 6 6
15	ふれあいサロンゆうもあ	4 8	4 3 6
16	東山ふれあいサロン	1 9	1 8 8
17	サロン中の川	1 6	8 1
18	どんぐりの会	4 9	4 4 2
19	ひまわり	1 8	1 3 8
20	升形3区お茶のみ会	3 7	3 3 1

2 1	末広町サロン	4 4	4 3 9
2 2	中道サロン	4 4	6 4 8
2 3	新庄囲碁サロン	5 1	2 8 7
2 4	萩の花健康サロン	3 9	5 0 3
2 5	よもぎサロン	3 5	3 0 7
2 6	日の出サロン	5 4	4 9 9
2 7	脳トレサロンワハハ!	1 2	2 0 6
2 8	角沢健康サロン（新規）	4 0	4 0 0
2 9	泉田駅前サロン（新規）	3 6	2 4 1
3 0	松本友和サロン（新規）	2 3	2 7 7
3 1	川西ふれあいサロン（新規）	7	2 7 5
合 計		8 1 4	7, 9 6 8

（事業効果等）

ふれあいサロンを通じて地域での交流機会が増加することで孤立感が軽減されると共に、体操に取り組むサロンでは運動習慣の維持につながった。

◇地域ふれあいサロン交流会

サロン活動を活性化するために、他地区サロンとの交流や意見交換の場として交流会を実施した。

開 催 日：令和7年9月18日（木）

場 所：最上広域交流センター「ゆめりあ」2階会議室

参加人数：11地区のふれあいサロン計19名

1 1. 敬老会支援事業（市委託事業）

町内会等で開催される敬老会の行事に必要な経費の一部を助成した。

開催地区 9地区 参加者 473人

補助金額 205,410円

（事業効果等）

高齢者の社会参加を促進し、地域住民との交流を深めることで、孤立防止や地域の支え合い体制の強化に寄与した。

1 2. 新庄市善意銀行事業

30,000円を限度に生活困窮世帯に貸付を行った。

			令和7年度	前 年 度	対前年比 (%)
現 年 度	払出	件数	0件	0件	0
		金額	0円	0円	0
	貸付	件数	26件	32件	81.25
		金額	589,800円	647,000円	91.15

	未償還	件数	1 3 件	1 2 件	1 0 8 . 3
		金額	2 7 0 , 8 0 0 円	2 7 9 , 0 0 0 円	9 7 . 0 6
全 体	未償還	件数	2 3 件	2 5 件	9 2
		金額	4 8 9 , 8 0 0 円	4 4 0 , 0 0 0 円	1 1 1 . 3

(事業効果等)

転職、急な疾病などで生活費が不足し生計の維持が困難になった世帯の相談に応じ、給与や公的給付が入るまでに必要な生活費を貸付した。生活自立支援センターもがみと連携し、生活状況の把握や家計に関する助言を通して、自立に向けた支援を行った。

〈参考〉貸付年度別未償還件数

年度	R 4	R 5	R 6	R 7	合 計
件数	3	3	4	1 3	2 3

1 3 . 放課後児童健全育成事業（市委託事業）

市の委託を受け、市内4ヶ所の放課後児童クラブを運営した。

日新放課後児童クラブ（松本）

萩野放課後児童クラブ（萩野学園内）

新庄放課後児童クラブ（新庄小学校内）

明倫放課後児童クラブ（明倫学園内）

施設	職員数	年間開所 日 数	定員	利用児童数（名）				
				年間利用者数	年度当初	年度末	1日あたり 利用人数	1日あたり 利用人数 (土曜日除く)
日新	8名	2 8 7 日	8 0 名	1 2 , 2 1 7	7 5	6 4	4 2 . 5	5 0 . 5
萩野	5名	2 8 7 日	4 0 名	7 , 7 6 7	3 7	3 8	2 7	3 2 . 4
新庄	6名	2 8 7 日	5 0 名	8 , 5 9 9	4 6	4 0	2 9 . 9	3 5 . 4
明倫	6名	2 8 7 日	6 0 名	1 1 , 1 6 1	6 0	5 8	3 8 . 8	4 6 . 2

(研修等)

○交通安全教室

期 日：令和7年5月30日(金)

場 所：日新放課後児童クラブ

講 師：新庄市環境課 交通安全指導専門員

参 加 者：利用児童全員及び職員

○第1回最上地区放課後子ども指導者等研修会

「気になる子と保護者への理解と支援」

期 日：令和7年6月17日(火)

場 所：最上総合支庁5階講堂

参加人数：日新7名、明倫6名、新庄3名、萩野4名 計20名

○職場内コミュニケーションづくり研修

期 日：令和7年9月4日(木)

場 所：社協3階会議室

講 師：萩野 美沙子 氏

参加人数：日新8名、明倫5名、新庄4名、萩野4名 計21名

○第2回最上地区放課後子ども指導者等研修会

「放課後の子どもの学びと交流」

期 日：令和7年10月30日(木)

場 所：山屋セミナーハウス

参加人数：日新7名、明倫6名、新庄4名、萩野4名 計21名

○学習支援ボランティア意見交換会

期 日：令和8年2月25日(水)

場 所：新庄市社会福祉協議会3階会議室

参加人数：学習支援ボランティア6名

(外部団体との交流等)

○学習支援ボランティア12名

実施回数：新庄19回、明倫19回、日新19回、萩野18回

延人数：186名

内 容：学習支援、利用児童との交流

新庄放課後児童クラブ

○花笠ホープ隊による疑似体験「自分だったら」の想像力

期 日：令和7年7月25日(金)

○けん玉教室

期 日：令和7年8月4日(月)

講 師：平山 明 氏 (日本けん玉協会 二級指導員)

○新庄小保護者主催「真夏の縁日」お祭り、絵本の読み聞かせ

期 日：令和7年8月6日(水)

○最上地区中学生ボランティア6名 「利用児童との交流、虫よけジェル作り」

期 日：令和7年8月7日(木)

○中学生ボランティア1名 「利用児童との交流」

期日：令和7年8月1・4・8日

○高校生ボランティア1名 「利用児童との交流」

期 日：令和7年8月12・16・22日

○木目アート体験

期 日：令和7年10月27日（月）

内 容：木目にクレパスで絵を描く

講 師：アトリエme+i ro代表 Hitomi氏

明倫放課後児童クラブ

○高校生ボランティア2名

期 日：令和7年7月29日(火)

内 容：利用児童とワミーをして遊ぶ。体を使う遊びで、ゴムとびをする。

○新庄市農林課主催

期 日：令和7年7月30日(水)

内 容：「新庄の農と食を知るバスツアー」に2・3・4年生が参加。
アスパラの収穫体験、料理教室

○高校生ボランティア1名 「支援員の仕事体験、利用児童との交流、高学年とドッチボール」

期 日：令和7年8月4日～6日、8月20日～22日

○けん玉教室

期 日：令和7年8月4日(月)

講 師：平山 明 氏（日本けん玉協会 二級指導員）

○最上地区中学生ボランティア 「利用児童との交流、虫よけジェル作り、モルック」

期 日：令和7年8月7日(木)

○明倫放課後子ども教室 「高校生と遊ぼう」1年生が参加。工作を制作。

期 日：令和7年8月8日(金)

○しんじょう出前講座

内 容：「いろいろな軽スポーツにふれてみよう」リズム感をやしなうダンス、トレーニング
を取り入れたレクリエーション。

期 日：令和7年8月19日(火)

○モルックに触れてみよう

日 時：令和7年8月21日（木）

日新放課後児童クラブ

○花笠ホープ隊による疑似体験「自分だったら」の想像力

期 日：令和7年8月5日(火)

○最上地区中学生ボランティア11名 「利用児童との交流、虫よけジェル作り、モルック、
ボッチャなどの体を動かす遊び」

期 日：令和7年8月7日(木)

○特殊詐欺被害の防止を呼びかける啓発カード作り

講師：新庄警察署 生活安全課

○日新中学校2年A組 社会貢献活動

内 容：「利用児童と雪遊び」雪だるまづくり、雪の滑り台づくり

期 日：令和8年2月13日(金)

(事業効果等)

子どもが安心して過ごせる生活の場として安全面を配慮しながら健全育成を図ることができた。

職員体制強化のため、萩野放課後児童クラブに常勤職員を1名増員した。また、常勤職員の離職防止のため、処遇改善を行った。

積極的にボランティアや外部団体の受入を行い、利用児童との交流を図った。

(課題等)

全学年を受け入れる集団生活の中で、多動性や服薬の児童など支援を必要な児童が増えており、常勤職員を増員しているものの限られたスペースで個々の状況に応じた支援が困難な状況で職員の負担が大きい。小学校や特別支援学級、関係機関等の専門職との連携強化が必要である。常勤職員の増員のみで解決できる性質のものではないことから、課題の整理を進めるとともに市との協議を通じて対応を検討していく。

14. 連絡調整育成指導事業

下記の団体に補助金を交付した。

団 体 名	内 容 等	金 額 (円)
新庄市戦没者遺族会	戦没者遺族会活動事業への支援 (市補助金303,000円)	303,000
新庄市民生委員児童委員協議会	調査協力費の交付	56,000
新庄市更生保護女性会	青少年非行防止等事業への助成	43,000

(事業効果等)

各団体の事業推進を支援した。



がついている事業は共同募金の配分金で実施している事業です。

15. 企画・広報・情報事業（共同募金配分金事業）

(1) 広報紙「社協だより」の発行

◇第57号	令和7年 7月発行	全戸配布
◇第58号	令和7年10月発行	全戸配布
◇第59号	令和8年 3月発行	全戸配布

(事業効果等)

活動写真を主体として、目につきやすい、読みやすい広報紙づくりに努めた。社会福祉協議会の事業内容や福祉情報、地域福祉活動を幅広く掲載し、市民の地域福祉活動への関心をより高めるとともに、各種情報の提供を行った。

(2) 社協だより「お知らせ版」の発行

毎月の社協の情報をより多くの方々に提供するために「お知らせ版」を発行し、情報発信を行った。

◇広報紙配布先 民生委員・児童委員、放課後児童クラブ保護者、市内介護支援事業所
日新小学校、新庄小学校、升形小学校、八向中学校、明倫学園等

◇広報紙設置先 市民プラザ、わくわく新庄、新庄図書館、ゆめりあ、市民文化会館、
雪の里情報館、わらすこ広場、萩野地区公民館、山屋セミナーハウス、
ほしてらす、日本調剤新庄薬局、新庄市成人福祉課、新庄警察署、
すぎのこハウス、新庄信用金庫本店、ナイン鍼灸治療院

(3) ホームページ・SNS（フェイスブック・Instagram・X）の運営

(事業効果等)

社会福祉協議会の事業や活動について、ホームページ・SNS（フェイスブック・Instagram・X）を媒体とすることで、研修会や義援金の案内、ボランティア活動の報告など、よりタイムリーに市民の皆様へ情報を発信し、広報を強化することができた。



ホームページQRコード



フェイスブックQRコード



InstagramQRコード



エックスQRコード



16. 助成金事業（共同募金配分金事業）

下記の団体との協働を図り、その活動を援助するため負担金等の助成をした。

事業実施福祉団体	内 容 等	金額（円）
社会を明るくする運動推進委員会	少年犯罪・非行の防止、更生援助への支援	28,000
新庄市身体障害者福祉協会	ストレッチ講習会への支援	28,000

(事業効果等) 各団体に助成し、事業推進を図った。

17. 社会福祉協議会表彰等事業 (共同募金配分金事業)

社会福祉協議会表彰

開催日：令和8年3月4日(水) 場所：新庄市社会福祉協議会3階会議室

社会福祉事業に多大な貢献のあった個人・団体に対し、その功を称え表彰を行った。

◇ 会長表彰受賞者 3名

《一般社会福祉事業関係功労者》

伊藤 大史(社会福祉法人友愛の里) 柏倉久美子(社会福祉法人友愛の里)

小島なをみ(社会福祉法人新庄かつろく会)

◇ 会長感謝状 4名 1団体

《社会福祉事業協助・奉仕者》

伊藤利喜子(新庄市更生保護女性会会員) 庄司 勇(生活支援員)

大場 幸子(新庄市共同募金推進員) 小野 正一(新庄市共同募金推進員)

新庄市読み聞かせ連絡協議会

(敬称略・順不同)

(事業効果等) 顕彰により更なる研鑽・貢献が期待できた。

18. 心配ごと相談事業 (共同募金配分金事業)

◇弁護士相談 新庄ひまわり基金法律事務所 渡邊 泰孝弁護士

毎月第3週木曜日(午後1時30分～午後4時)

◇一般相談 (社協職員対応) 平日 (午前8時30分～午後5時15分)

相談内容	弁護士相談	相談内容	一般相談
借金・多重債務	12件	生 計	57件
離 婚	6件	障 が い	1件
遺 言・相 続	18件	除 雪	23件
近隣トラブル	3件	そ の 他	1件
財産・不動産	5件		
事 故	1件		
労 働	2件		
消 費 者	1件		
苦 情	0件		
そ の 他	6件		
合 計	54件	合 計	82件

(事業効果等)

弁護士相談において、離婚、相続、借金等の相談に対し、法的な観点から問題解決に向けた助言や適切な方向性についてのアドバイスを行った。

一般相談では、生活困窮に陥っている世帯の相談が多く、フードバンクの活用や、行政、生活自立支援センターもがみ、民生委員児童委員、山形県社会福祉協議会等と連携して、迅速な支援を行うことができた。

19. 援護事業（共同募金配分金事業）

フードバンクの提供

生活自立支援センターもがみ、行政等の関係機関と連携し、新庄市内の以下の世帯に食料品の提供を行った。

- ・生活困窮者世帯 延べ21世帯（17人世帯）
- ・子どもが3人以上（18歳未満）の母子世帯19世帯

（事業効果等）

生活困窮世帯等に食料品を支給し、一時的に生活を維持することができた。生活が維持できるように関係機関と連携を図った。

20. 児童遊び場整備事業（共同募金配分金事業）

地域で管理している児童遊園の遊具の修繕費用や保全に必要な原材料の給付を行った。

	申請地区数	総事業費（円）	地元負担金（円）	交付金額（円）
遊具の修繕	4地区	414,700	97,670	317,030
		往還、仁田山、金沢新町、横根山		
原材料支給等	15地区	184,454	—	184,454
		赤坂、福田、二枚橋、市野々、横根山、清水、角沢、仁田山、本宮2区、金沢6区、升形上2区、升形下2区、上西山、往還、柏木原		

（事業効果等）

各地区へ除草剤等の原材料の支給、修繕費を補助することで、子ども達が安全に遊べる遊び場を整備することができた。

21. 高齢者健康対策振興事業（共同募金配分金事業）

第32回会長杯ワナゲ大会の開催

例年にない暑さで厳しいコンディションの中、元気にハツラツと競技に取り組んだ。

新庄市健康課による健康講話も行われ、健康増進への意識を高めるきっかけとなった。

開催日：令和7年9月16日（金） 場所：新庄市体育館

参加人数：20チーム 118名

	団体の部	個人の部	
		男子	女子
優勝	新松会	押切 守 (桧町桧和会)	佐藤賀志子 (新松会)

準優勝	上茶屋町めぶきクラブ	渡部 明 (吉祥クラブ)	高橋良史子 (上茶屋町めぶきクラブ)
第3位	吉祥クラブ	石山 宣助 (末広町寿会)	高橋イツ子 (松本友和会)

(敬称略)

22. 愛のひと声運動事業（共同募金配分金事業）

配達日 毎週月・水・金曜日

利用者 26名 延回数 2,726回

(事業効果等)

市内の乳酸飲料業者と連携し、ひとり暮らしの高齢者を対象に乳酸飲料を配付しながら、声がけや安否確認することで、住み慣れた地域での安心した生活を支援することができた。

23. 高齢者世帯等除雪支援事業（共同募金配分金事業）

ボランティアの協力により、他から除雪に係る作業的・金銭的支援を受けられない高齢者世帯の自宅の玄関前と軒先の除雪を支援した。

実施回数 : 13回 (9世帯)

活動団体数 : 9団体

(団体 : 八向中学校、日新中学校、農林大学校、新庄コアカレッジ介護福祉科、
(株) トウショー (河北町)、大成第一塗装工業 (株)、新庄市役所「お
助けし隊」、(株) 三和 (山形市)、新和産業 (株) (山形市)

参加人数 : ボランティア延べ100名

(事業効果等)

1月下旬から2月上旬まで災害レベルの大雪となり、除雪に関する相談が昨年よりも増加した。これを受け、市成人福祉課と連携し、心配な世帯等の現場確認を実施した。除雪ボランティアでは対応が間に合わない緊急性の高いケースやボランティアが安全に除雪作業できるように社協職員が訪問し、軒先の除雪支援を行うなど、必要に応じた対応を行った。また、今年度は新たに以下の4団体から除雪ボランティアとして登録・協力をいただいた。

- ・日新中学校
- ・(株) トウショー (河北町)
- ・(株) 三和 (山形市)
- ・新和産業 (山形市)

昨年度から継続している「シルバー人材センターで対応できない高齢者世帯の玄関前除雪」については、市内全中学校を訪問し、玄関前除雪ボランティアの趣旨説明を行った。その結果、グーグルフォームで募集を行ったところ、募集者は以下のとおりであった。

- ・明倫学園 3名
- ・新庄中学校 2名
- ・八向中学校 3名

明倫学園および新庄中学校には再度募集を依頼したが、学校側との条件調整や日程の都合が合わず、実施には至らなかった。八向中学校については玄関前除雪の該当世帯がなかったため、学校周辺3か所の軒先除雪を実施した。社協としては対象世帯の現場確認を行い、必要な支援につなげた。

24. ボランティア活動推進事業（共同募金配分金事業）

○ボランティアセンターとして、情報提供や活動場所との調整を行った。

○ボランティア活動保険の加入業務を行い、ボランティア団体の把握に努めた。

（1）新庄市総合防災訓練における災害ボランティアセンター設置・運営訓練

開催日：令和7年10月19日（日）

場所：ゆめりあ 2階会議室

参加人数：事務局3名、地域包括支援センター1名、もみの木介護支援事業所1名

（2）最上地域社会福祉連絡協議会 令和7年度合同研修会

災害ボランティアセンター運営研修会

開催日：令和7年7月11日（金）13時30分～16時45分

場所：新庄市民文化会館 小ホール

内容：第1部 講話「社協として災害支援にどう向き合うか
～今 災害VCに求められているもの～」

講師 大崎市社会福祉協議会

事務局次長兼総務副部長 加藤大介 氏

第2部 鼎談「災害支援団体との連携・協働を目指して
～これからの最上地域のために～」

ゲストスピーカー

DRT JAPAN YAMAGATA

代表 我妻清和 氏

大崎市社会福祉協議会

事務局次長兼総務副部長 加藤大介 氏

進行

戸沢村社会福祉協議会

事務局長 八鍬 真生 氏

参加人数：36名（最上管内市町村職員、社協職員）

（3）ボランティア団体との協働

・チョコボラ : 訪問理美容ボランティアのご協力により、外出困難な高齢者等へ理髪することにより、福祉向上を図ることができた。

実施件数： 18件

25. 元気・ハツラツ予防体操事業（共同募金配分金事業）

高齢者の方々が生きがいを見つけ、いつまでも自分らしく健康で生活ができるよう、運動機能の向上を目的として予防体操を実施した。

開催日時・場所：①毎月第1金曜日 13時～14時 社会福祉協議会2階
②毎月第2金曜日 13時～14時 市民プラザ2階ヘルシールーム
③毎月第3金曜日 13時～14時 社会福祉協議会2階

参加人数：472名

実施回数：25回

講師：公益社団法人山形県柔道整復師会
植木 俊和 氏（植木接骨院）
早坂 耐希 氏（早坂整骨院）
加藤 修 氏（かとう整骨院）
早坂 心大 氏（早坂整骨院）

（事業効果等）

社協事務所と市民プラザで開催し、定員数を昨年度の25名から30名に増やした。参加者の健康に対する意識が高く、日常生活であまり使わない筋肉を刺激することで、筋力や体力の維持・向上することができた。参加者が多く、次年度も引き続き事業を継続していく。

【旧老人福祉センター運営事業】

1. 旧老人福祉センター施設管理事業

建物の老朽化のため、令和7年3月末日で廃止となる。

（課題等）

旧老人福祉センターの建物については市に移管する方向性で市と協議していく。

建物が市に移管されるまでの維持費については全額市で負担していただけるように市と協議していく。

【共同募金事業】

山形県共同募金会新庄市共同募金委員会と連携し、区長をはじめ多くの市民・団体等のご協力を得て募金活動を推進した。

1. 赤い羽根共同募金

〈募金内訳〉

	令和7年度（円）	前年度（円）	対前年比（％）
戸別募金（町内）	3,719,000	3,702,650	100.4
企業募金（447件）	1,658,159	1,646,500	100.7
街頭募金（3団体）	14,543	84,068	17.2

学校募金（市内１５校）	９０，８６４	１５９，４８４	５６．９
職域募金（２７ヵ所）	９７，６６８	９９，０４８	９８．６
篤志募金（市民有志等）	１３６，２３６	１６９，６７９	８０．２
合 計	５，７１６，４７０	５，８６１，４２９	９７．５

〈配分内容〉

配 分 先	○こども食堂等運営事業（２ヵ所） 特定非営利活動法人オープンハウスこんぺいとう、 わたしのくらしプロジェクト ○地域福祉事業 新庄市社会福祉協議会
社 協 配分事業	愛のひと声運動事業、高齢者世帯除雪支援事業、助成金事業、児童遊び場整備事業、社会福祉協議会会長表彰、心配ごと相談事業、フードバンク、ボランティア活動推進事業、ワナゲ大会の開催、広報紙の発行、ホームページの運営、元気・ハツラツ予防体操

（事業効果等）募金の配分金を福祉施設の整備や地域福祉事業に活用し、地域への還元を図った。

〈参考〉

街頭募金協力団体	新庄市身体障害者福祉協会、新庄市更生保護女性会、 山形県社会福祉士会最上支部、
街頭募金活動場所 活動場所提供協力	ヤマザワ新庄宮内店、マックスバリュ新庄店、ビッグフレック新庄店
学校募金協力校	新庄小学校、本合海小学校、萩野学園、明倫学園、升形小学校 日新中学校、八向中学校、新庄中学校、新庄北高等学校、新庄南高等学校、 新庄神室産業高等学校、新庄東高等学校、新庄養護学校、東北農林専門職大学
職場募金 （募金協力）	新庄市役所、新庄市体育協会、最上広域市町村圏事務組合
職場募金 （募金箱設置協力）	新庄市役所市民相談室、新庄・最上地域シルバー人材センター、もがみ物産館、 マックスバリュ新庄店、よつば調剤薬局宮内店、セブンイレブン新庄新町店、 産直まゆの郷、新庄市身体障害者福祉協会（県立病院売店、合同庁舎売店）、 ファミリーマート新庄千門町店・若葉町店・十日町店・常葉町店、ヨークベニマル新 庄店・新庄下田店、ヤマザワ新庄宮内店、ニューグランドホテル、(株)柿本商店、ダイ ユーエイト(株)新庄西店、ビックフレック新庄店、新庄市社会福祉協議会
篤志募金	石山宣助、新庄・最上地域シルバー人材センター（シルバーフェスティバル会場）、 ワナゲ大会会場、オレンジ市場、匿名１４名

（順不同・敬称略）

２．歳末たすけあい募金

（１）募金活動

〈募金内訳〉

	令和７年度（円）	前 年 度（円）	対前年比（％）
戸別募金（町内）	１，８５１，９００	１，８４５，１００	１００．３
篤志募金（市民有志等）	２１，７２０	２１，４００	１０１．４
合 計	１，８７３，６２０	１，８６６，５００	１００．３

(2) 歳末たすけあい運動

共同募金運動の一環として、市民の皆様からお預かりした歳末たすけあい募金について、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人達が安心して暮らせるよう配分委員会を開催し、効果的に配分した。

〈配分内訳〉

世帯区分	対象世帯数（世帯）	配分金額（円）
準生活保護世帯	5	100,000
高齢者世帯	48	960,000
母子・父子世帯	26	520,000
障がい者世帯	1	20,000
入院・入所世帯	0	0
その他困窮世帯	1	20,000
合計	81	1,620,000

・配分額 現金20,000円×81世帯＝1,620,000円

・地域福祉活動費として199,212円 新庄市共同募金委員会事務費として55,000円

(事業効果等)

配分金は民生委員児童委員や関係機関と協力を得て、効率的に調査・配分することができた。

【介護等支援事業】

1. 介護支援事業（もみの木介護支援事業所）

介護支援専門員 5名

介護を必要とする方が住み慣れた自宅でできるだけ心身ともに健康で過ごせるに、専門的な見地から本人の心身の状況や生活環境を見極め、本人や家族の意向を丁寧に聞き取り、医療機関やサービス提供事業所とも連携を密にとりながらケアマネジメント業務を実施した。

		令和7年度	前年度	対前年比(%)
要介護	件数	1,398	1,447件	96.6
	収入	22,698,400	23,450,880円	96.7
要支援・事業対象	件数	503	505件	99.6
	収入	2,107,240	2,077,500円	101.4
認定調査	件数	164	150件	109.3
	収入	541,200	495,000円	109.3
合計	収入	25,346,840	26,023,380円	97.4

(事業効果 課題等)

・新規利用の相談は、月平均5.5件寄せられて対応したが、死亡や施設入所、転居などの理由で終了する方、短期利用や相談のみで介護サービス利用に結びつかず、ケアプラン作成件数は前年度とほぼ同様だった。

- ・若い方のがん相談が増えて、自宅で最期まで過ごしたいという本人や家族の希望を叶えるために病院、訪問看護師、薬局と連携しながら、看取りのケアマネジメントを十数件対応することができた。
- ・特定事業所として、24時間連絡体制を確保し、時間外や休日に相談対応を実施することができた。
- ・新規の利用者をさらに増やせるように努力していく。

2. 訪問介護事業（もみの木訪問介護事業所）

介護福祉士 3名
介護福祉士実務者研修修了者 1名
ホームヘルパー2級 11名

（令和8年3月31日現在）

自分や家族だけで日常生活を営むことが難しくなった要介護者に対して、介護福祉士やヘルパーの資格を持った介護員が自宅に赴き、入浴、排泄、食事等の身体介護、掃除、洗濯、調理等の生活援助、通院時の外出移動サポート等の日常生活上のお世話を行うと共に、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、居宅介護支援事業所等と連携し業務を推進した。

		令和7年度	前年度	対前年比（%）
訪問介護事業	件数	557件	728件	76.5
	収入	17,887,056円	20,889,170円	85.6
障害者自立支援事業	件数	96件	112件	85.7
	収入	7,027,250円	6,392,660円	109.9
ひまわり介護サービス事業	件数	88件	90件	97.7
	収入	323,100円	572,675円	56.4
福祉有償運送サービス事業	件数	244件	353件	69.1
	収入	134,600円	130,470円	103.1
合計	収入	25,372,006円	27,984,975円	90.6

（事業効果・課題等）

- ・介護職員処遇加算の要件を維持できるよう事業所の体制を整備し、利用者に直接介護サービスを提供する介護職員の処遇改善を図った。

【地域包括支援センター運営事業】

1. 地域包括支援センター事業

主任介護支援専門員2名、保健師2名、社会福祉士4名、生活支援コーディネーター1名、認知症地域支援推進員1名（保健師1名が兼務）事務員1名

○総合相談事業

①総合相談

介護に関する相談をはじめ、高齢者や地域の方の様々な相談を受け止め、包括の専門職が連携し、適切な制度やサービス、関係機関に繋げ、継続的に支援することができた。また、地域の関係機関や事業所、民生委等の関係者とのネットワークを構築できた。

総合相談事業		令和7年度	前年度	対前年比 (%)
相談件数	新規相談+継続相談	11,209件	11,123件	100

②地域におけるネットワーク構築

福祉の関係機関・団体、事業所、医療機関、障がい者サービス事業所等と様々な会議や研修会、イベント等を通して相談対応時に連携しやすい関係性を構築した。今年度は、特にオレンジ市場やオレンジカフェ、小中学校との福祉教育等の交流事業の開催が多く、様々な分野とのネットワークが広がった。

○権利擁護事業

介護保険サービスだけでは課題解決できない世帯や適切な制度やサービスに繋がらない困難な状況にある世帯が尊厳のある生活ができるよう専門的・継続的な視点からの支援を実施した。高齢者虐待、成年後見制度、経済的困窮等の相談に対しては、新庄市、介護関係事業所、民生委員、医療機関、自立支援センター等の関係者と連携して対応した。

○包括的・継続的ケアマネジメント

高齢者が住み慣れた地域で安心した暮らしを継続できるよう、介護支援専門員、病院、地域の関係機関等の連携、在宅と施設の連携など、地域における多職種の協働・連携体制づくりや、個々の介護支援専門員の支援を行った。

①介護支援専門員資質向上連絡会の開催

介護支援専門員の実践力向上やネットワーク構築のための研修会、情報交換会を開催した。

場所：新庄市社会福祉協議会 開催回数：5回 参加延人数：118名

<内容>

第1回：新体制紹介・情報交換会

第2回：自立支援センターの事業内容・連携

第3回：疾患別ケアの理解

第4回：多頭飼育問題 第5回：災害時の役割・防災力向上

②介護支援専門員への個別援助

介護支援専門員がケアマネジメントを実施するにあたり、判断に迷う時などに助言等を実施した。

困難事例については、同行訪問や関係機関との協議の場を設置するなど解決に向けて支援した。

○自立支援型新庄市地域ケア会議の開催

介護支援専門員から事例提供いただき、多専門職種が協働し、個別ケースの課題や支援内容を検討し、課題解決を協議した。各専門職の外部助言者から適切な助言を受け、自立支援型ケアマ

ネジメントの実践力向上や関係者間のネットワーク構築を図った。

開催回数：6回（第3水曜日） 検討ケース：11ケース 参加者：96名

参加者：新庄市、居宅介護支援事業所、サービス事業所、外部助言者（薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、傍聴者

○研修会・イベント等の開催

①認知症サポーター養成講座

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守り支える認知症サポーターを養成した。小中学校、高校での開催が多く、福祉教育の推進に繋がった。

対象：一般市民、新庄南高校、萩野学園、八向中学校、新庄小学校、本合海小学校

回数：7回、サポーター養成人数：166名

②オレンジカフェ（認知症カフェ）

認知症サポーターの協力のもと、気軽な雰囲気の中で認知症について学び、ミニ講話やレクリエーション等を行いながら、交流できる場所として開催した。

開催場所

- ・ひと休みいっぷく（いっぷくオレンジカフェ） 回数：11回、参加者：86名
- ・社会福祉協議会2階（ものづくりカフェ） 回数：31回、参加者：408名
- ・社会福祉協議会2階（オレンジ市場カフェ） 回数：3回、参加者：49名
- ・地区公民館等（出張オレンジカフェ） 回数：8回、参加者：69名

③市民向け終活講演会

終活やエンディングノートの書き方などについて市民に周知を図り、正しい知識を学んだ。

開催日：令和8年2月24日（火）14時～15時30分 場所：ゆめりあ会議室

参加者：30名 講師：辻終活FP事務所 辻文寿氏

④いきいき百歳体操（筋力運動）・かみかみ百歳体操（口腔体操）の立ち上げ支援

高齢者の社会参加と介護予防を目的として、地域の公民館や福祉施設等で毎週体操ができる通いの場の立ち上げや体操の実演による指導を実施した。

＜実施場所＞43箇所

社会福祉協議会、新庄市体育館、グループホーム大手町・ふきのとう、萩野地区公民館、さんのほり、とこしえ新庄松本・新庄金沢、SOMPOケア新庄城西、有料老人ホームすまいる、ほしてらす、日本調剤薬局、みどりの大地、すぎのこはうす、最上センター薬局、沖の町薬局、かねざわ薬局、新庄小学校、日新小学校、上茶屋町公民館、萩野地区公民館、千門町公民館、鳥越公民館、日の出町会館、鉄砲町公民館、小泉公民館、横根山公民館、福原商店（末広町）、八向地区公民館、中道町公民館、萩野多目的研修センター、金沢地区個人宅、吉袋公民館、わくわく新庄、金沢新町公民館、升形地区公民館、末広町公民館、松本公民館、泉田駅前公民館、角沢公民館、川西公民館、福祉ステーションつばさ、あおばデイサービスセンター

⑤オレンジ市場の開催

障がい者サービス事業所の物品販売やオレンジカフェ、社協事業の周知活動等を行う「オレンジ市場」を開催した。参加者が多く、知名度が向上し、山形新聞の取材を受けた。社協の知

名度向上に繋がる事業であり、地域住民・学生との交流、障がい福祉サービス事業所との連携が深まった。今年度は地域に出向いたものだけでなく、各高校とも連携し、「出張オレンジ市場」を開催した。

○社会福祉協議会：6月6日、10月3日、11月7日

○新庄北高校：5月2日、7月26日

○萩野地区公民館：7月3日、11月20日

○社会福祉協議会輪投げ大会：9月26日

○新庄神室産業高校：5月23日

○新庄東高校：6月28日

(事業効果等)

相談件数は昨年度より微増であるが、多くの相談が寄せられた。各専門職が専門性を活かし、関係機関と連携し、包括的な相談支援を実施できた。介護支援専門員資質向上連絡会や地域ケア会議を通して介護支援専門員等の専門性向上やネットワーク構築を図ることができた。令和7年度は、いきいき百歳体操の開催場所が増え、オレンジ市場や小中学校とのスポーツ交流といった地域に出向いた活動が充実した。

2. 介護予防支援事業（もみの木介護予防支援事業所）

介護保険における要支援者及び介護予防・日常生活総合事業における事業対象者に対して、心身の状態や環境に応じ、自立に向けたケアマネジメントを実施し、能力の維持向上に努めた。また、一般高齢者には、いきいき百歳体操を紹介し、心身機能の維持向上を図った。

介護予防ケアマネジメント	令和7年度	前年度	対前年比(%)
総 件 数	4,366件	4,442件	98.2
うち自社作成分	1,301件	1,250件	104
委 託 件 数	3,065件	3,192件	96
収 入 金 額	20,182,060円	20,618,640円	97.8
委託費支出金額	13,193,360円	13,537,400円	97.4

(事業効果等)

令和7年度の総件数は微減。居宅介護支援事業所に委託するケースが減り、その分自社作成の件数が増加した。サービス提供事業所と連携し、自立支援に向けたケアマネジメントを実施した。委託ケースについては、適切なケアマネジメントが実施されるよう随時確認・指導のうえ実施した。